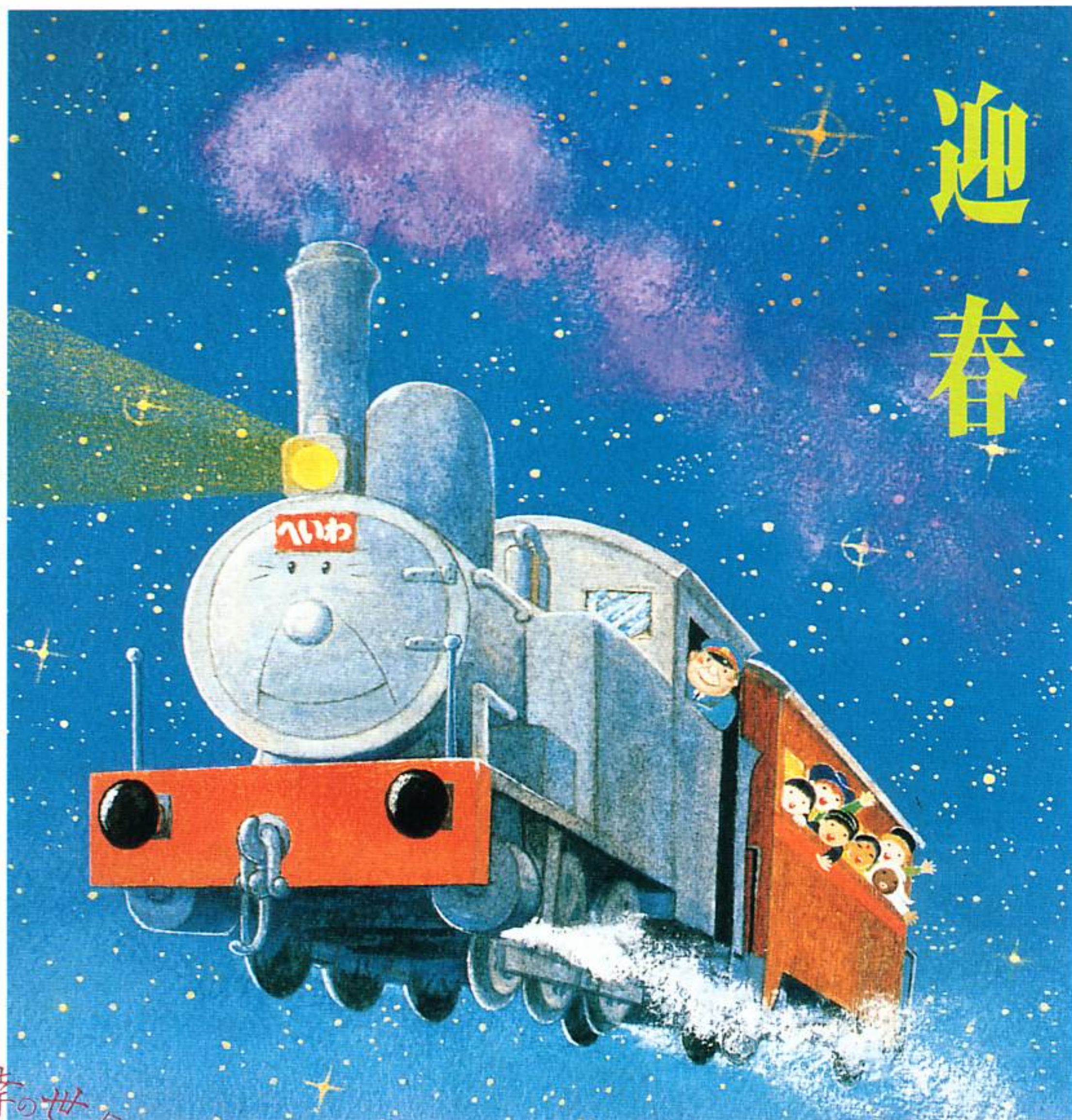




迎春

高橋宏幸の世界

10

町出身・絵本作家



一九二三年老方に生まれる。長年児童図書の編集にたずさわりのち創作活動にはいる。文・絵・実技指導と幅広く活躍。「チロヌップのきつね」など数多くが海外でも出版。

絵本「きかんしゃきゅうべえ」
愛知県にある「明治村」の中を、古い機関車が二台走っている。小さい方の「9号」車は、明治四年、ドイツから購入したもので、戦前、身延線で働いていたという。戦後、同線の山間の駅で雨ざらしになっていたのが、明治村の造営で、再び目の見るようになったのだった。
七、八年前、明治村を訪れた折、その老骨に鞭うってけんめいに働く姿が、あの横荘線の豆機関車のイメージにつながり、ひどく感動したことを思いだす。その印象が、絵本「きかんしゃきゅうべえ」に結晶したのである。
すなわち、「じいちゃん、空を飛んでくれよ」と叫ぶ、山のこどもたちの夢と、「このまま朽ち果てさせないで、なんとか立派な遊園地で、最後の花を咲かせてやりたい」と思う老駅長の願いをエネルギーとして、機関車九べえが、壮大な宇宙へ飛び出すのだ。
この絵は、二枚描いた表紙絵の一枚で、プレートネームを「9」とせず、「へいわ」としてグループ展に出品したものである。平成三年こそ、ほんとうに平静な年であるようにと、祈る気持ちでこの絵を選んだ次第。
(高橋・記)

定住を考える!!

望む職場がない、給料が安い……から町を出る?

若者を町にとどめさせるにはどうしたらいいか

平成三年、一九九一年。新しい年が静かに明けました。数々の課題を抱えながらも、東由利町は着実に発展をとげていますが、古くて新しい問題である「若者の定住」については依然として深刻な問題のままになっているのが実情です。

町では若者定住対策の一環として、昨年アンケート調査を実施（12月号に結果掲載）、来年度は町議会と協議のうえ「若者定住促進基金」を設けることにしているなど、その対策の強化に努めています。

若者を町にとどめさせるにはどうしたらいいのか……広報ひがしゆり恒例の新春座談会では、昨年の春に高校を卒業し町内に住んでいる若者十六人のうち、五人にお集まりをいただき、町に望むことなどについて本音を出し合っていました。



佐藤 英之さん



木島千世子さん

本音は「都会に出てみたい」

司会 役場企画財政課の調べによると、昨年の高卒者で皆さんの中学時代の同級生は七十人おり、そのうち七〇％にあたる四十九人が就職、残り三〇％の十一人が進学しています。

就職の内訳は、町内が十一人、本荘市など近郊が五人で、十六人が町内に居住、ほかの三十三人は大都市を中心に町外に出ています。

このように、進学を除いて皆さんの同級生の約七〇％は町から出ていますが、どうして町を出ていったのか、また皆さんはなぜ残ったのか、聞かせてください。

遠藤 ぼくは一人っ子で、当然のことのように町に残りました。でも、勤め先は由利町のカメラ部品会社で、家から通って

町から出て行くのは、一人暮らしを楽しみたいということもあるんじゃないでしょうか。

小笠原 私は去年高校卒業後、静岡県の紡績会社に勤めましたが、むこうの生活になじめなくて、その夏にUターンしてきました。いま町内のガソリンスタンドで働いていますが、若い人がたくさん店に来ますのでとても楽しく仕事をしています。む

若者の

1991年・新春座談会



小笠原チヤ子さん



遠藤 哲也さん



畠山真由美さん



出席者／▽遠藤哲也（館西・会社員）

（敬称略）

▽畠山真由美（下通・団体職員）

▽小笠原チヤ子（土場沢・会社員）

▽佐藤英之（五海保・団体職員）

▽木島千世子（大琴・団体職員）

司会／高橋重保（役場企画財政課）

こうに比べると確かに給料は安いですが、私はあまり気にしてません。給料が安いことも町を出る原因かも知れませんが、佐藤 ぼくは働いてみたいと思う仕事があったので、取りあえず町に残りましたが、やはり働く場が少ないことが町を出る一番の原因だと思います。いま農協で働いていますが、正直言って給料は安いですが、それから、人間関係、特に先輩の人とうまくやっていけない悩みを持っています。年輩の人には、もう少し若い人の意見を聞いて欲しいですね。



司会・高橋重保さん

を出て生活してみても自分にとって良い経験になったろうと思います。両親は町を出てもいいって言ったんですけど、本音は違ってたと思います。町を出るのは、やっぱり仕事がないからかな。

司会 ありがとうございます。皆さんの中にも町を出たいと思う人がいるようで、またその気持ちも分かるような気がします。そして町を出るのは働く場が少ないこと、給料が安いこと（次ページへ続く）

年頭のあいさつ

東由利町長・畠山亮二郎

平成三年の新春にあたり、町民の皆様にごあいさつ



を申し上げます。

昨年は、若者待望の野球場をはじめ、玉米会館、やすらぎ苑が建設されたほか、国道一〇七号・大琴バイパスが開通をみるなど、町民の生活基盤が一段と確立された年でありました。また昨年は、町農業の今後の道しるべとなる「町農業振興大綱」の策定作業に着手し、その一環として開催した「山村に生きる農業シンポジウム」には、農家大勢の皆様にご参加を得

て来たところであります。同大綱は年度内に完成させる予定です。さて、社会経済情勢が激化する中で向かえた平成三年……今年も町民の生活基盤の整備をはじめ、農業を中心とした産業の振興、社会福祉、教育の充実のために、昨年にも増して鋭意努力を重ねてまいります。

その実践として今年は、長年の懸案でありました役場庁舎の建設に向け、その建設基金を設置する

ことにいたしました。また、温泉開発を同協議会の答申に基づき進めるほか、町民生活基盤の確立のため▼勤労者野球場ナイター設備の設置▼台山グラウンドの整備▼八塩小プールの新設▼青少年交流施設の開設▼八塩自然休暇村の整備など……農業振興施策として▼農業活性化対策事業の実施▼施設型農業の推進▼特産品づくりフォーラムの開催▼繁殖成牛導入対策事業の実施▼木工品技術アドバイザー

ザーの設置など……将来に備え▼若者定住促進基金の設置▼公営住宅整備の調査などを計画しているところであります。

本年も、明るく住み良い、うるおいと活力あふれる町づくりを、町民一丸となって進めてまいりたいと存じますので、皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

町政のますますの発展と、皆様のご多幸を心からお祈りし、年頭のごあいさつといたします。

若者の定住を考える!!

若者を町にとどめさせるにはどうしたらいいか



若者には車がかなりの負担に……

給料の大半が車のローンとガソリン代

(前ページから)
と、また都会へのあこがれなど

の理由があるようで、非常に大きな課題のように思います。

司会 給料が安いということなんです、ズバリ皆さんの給料はどれくらいなんですか。また、どれくらいの金額を望んでいるのでしょうか。

佐藤 はずかしいですが、ぼくの場合は手取りで月八万円くらいです。車のローンとガソリン代を払うと、ほとんど手元にお金が残りません。最低でも十万円は欲しいですよ。

遠藤 ぼくは残業を含め十二万円くらいです。でも、仁賀保町の大手電子部品会社に勤めている同級生なんかは、ぼくより数万円高く、冬のボーナスは四十万円ももらったと言っていました。うらやましいですよ。

上をみれば切りがないでしょうけれど、やっぱり残業なしで十二万円は欲しいですね。

畠山 私のも車のローンと洋服代なんかを払っちゃえば、貯金するところはちよっぴり。でも車を自分で買っただけでもいいかな、なんて思ってます。

小笠原 私は前に比べたら半分。でも、食費やアパート代がかからないですからね。もちろん、生活費は親に負担してもらっているんですけど……。

木島 私は給料が安いと思っ

たことはないんですが、よそと比べたら安いんでしょうね。でも、高い給料をもらったら、ぜいたくして、それなりに使っちゃうんじゃないかな。

佐藤 それにしても安すぎですよ。この町じゃ車がないと何にもできないし、車は必需品になつてるでしょ。その車に給料の大半をつぎ込まなければならぬのは情けないですよ。それにガソリン代もかかるし、金のないやつは家に閉じこもっている、ということになるんですかね(一同笑い)。

定住者に車プレゼントしたら……

司会 車がかなり負担になっ

ているようなんですが、いま町では若者の定住対策の一環として、車の購入資金や後継者の居室整備資金などの一部を貸し付ける制度を検討しています。皆さんだったら利用しますか。それ

れから、若者定住対策として効果が表われると思いますか。

遠藤 ぼくは借りたいと思います。ローンの利子分だけでもかなりの金額ですからね。

それと、ローンの利子分を助成するという手もありますね。車がすぐ手に入るとなれば、都会に行かないで町に残り、町内に仕事がない場合でも本荘や横手に仕事を見つけて通勤する人が増えるんじゃないかな。これからは道路も良くなるだろうし……。

佐藤 ちょっとオーバーですが、町内に残る人に二百万円くらいの車をプレゼントしたらどうかな。年間平均三十人残ると……。

他の町に威張れるものが欲しい

司会 それではこの辺で、こんな町になつたらいいとか、町にこんなものがほしいな、といったことがあつたら聞かせてください。

遠藤 東由利町には町民プールがないので、ぜひ作って欲しいですね。どうせなら屋根付きの温水プールで、しかもサウナ付きの……。

畠山 パチンコ店があつたら

して年に六千万円……ふるさと創生の一億円があればできますよ(笑い)。

木島 高校や大学を卒業して町に残る人に、就職前に海外旅行をプレゼントするというのもいいじゃないですか。

遠藤 ニュースで知ったんですが、鹿角市ではUターン者に二十万円の奨励金をやっているそうです。これも方法としてはいいんじゃないかな。

佐藤 お金をもらったなら、またすぐに出て行くんじゃないかな(笑い)

司会 車のプレゼントというのはいいですね。町長に話しておきますよ。

どうかな。この町から本荘や横手の店に行っている人が多いみたいですから……。

佐藤 町にできても、みんなよそに行くと思うよ。

ぼくは深夜営業のフードショップが欲しい。ちよっぴり都会的な感じがするし、安心感みたいなものが持てるから……。

遠藤 よそのまねでなく、何か自分たちが、他の町に威張れるものが欲しい……それが何かは分からないけど、それを若い人たちに選ばせ、わがままかも知れないですが、行政はあまり



(写真・12/23クリスマスパーティ)



若者の望む職場とは…… (写真・大東精機)

1991・新春座談会

むずかしいことを言わないで作って欲しいように思います。それによって、そこから何かまた別のものが生れてきそうな気がします。

小笠原 鉄道がないというのが大きなハンデじゃないかな。これから作るのには不可能でしょうけど、何かそれに代わって精神的な面で満足できるもの……たとえば、町営の超デラックスバスを無料で走らせるとか……それから、どっかの町に青年会館ができましたよね。デイスコやコンサートができるようになって……あんなのが町にあればいいと思うな。

木島 東由利町はこれからますます道路が良くなりますよね。そのバイパスを、ただの道にしたいくない気がします。何かパツと目を引くものがあれば……いま舟木のところまで道路沿いに花壇が造られてますけど、いいですね。バイパスに並木通りもステキだと思います。また、町には街灯が少ないので整備してほしいです。大切なのは、やはり環境づくりだと思います。

遠藤 町でコンサートなんかを開けば何百万円もかかるから、むしろコンサートの券を町でまとめ買いし、若い人たちにプレゼントするというのがいいね。
司会 かなり町の負担が大きくなりしましたが、でもそれで町に魅力を持ってもらえるならば

……という感じもします。どうもありがとうございました。

今年の抱負は……

司会 それでは最後に、月並みですが新年にあたって、抱負を一言ずつお願いします。

遠藤 若い人が盛り上げられるようなイベントを自分たちの手でやってみたいと思っています。

畠山 今度は社会人二年生になるので、仕事でみんなに迷惑をかけないようにしたいことと、何か一つでもいいから役にたつことをしたいと思っています。

……という感じもします。どうもありがとうございました。



若者が望むものは……

木島 趣味を広げていきたいです。それと、いろんな所へ足をのばし、美しい風景など心のなごみ場所を見つけないですね。
小笠原 どこか遠くに、のんびりとした旅行をしてみたいですね。なんて思ってます。

佐藤 ぼくも、今までは社会人一年生でちょっぴり甘えがありましたので、これからは少し大人になって、もっと充実した生活を送っていききたいです。
司会 どうもありがとうございました。

皆さんは社会人になったばかりで、これからいろんなことを学び、経験していくことだろうと思います。

これから町づくりに意見や要望がありましたならば、ぜひ聞かせてください。

町誘致企業・大東精機(株)

12月から仮操業を開始

町の誘致企業として西山工業団地(蔵字上の山)に進出した「大東精機(株)」(渋谷正敏社長)の、工場がこのほど完成し十二月二十四日から仮操業を開始しました。

同社は、金浦町に本社のある丸大機工(株)(資本金三千万円・従業員百二十六人)が、

現地法人大東精機(株)を設立し本町に立地したもので、精密機械の部品加工組立を中心とする男子型の企業です。

同社の敷地面積は約六千六百平方メートルで、そのうち第一期計画として約千平方メートルに工場を建設、従業員は今後の採用も含め、平成三年度内に三十五人にする計



仮操業を開始した町誘致企業・大東精機(株)工場

画です。

また、将来は男子を中心に五十五人の従業員を採用する計画で、このうち二〜三割は中高年者の採用を見込んでいます。ことから、同年代を採用する企業の少ない本町にとって同社の操業に期待が持たれます。

同社ではこの工場に二億六千万円を投下し、年間生産額を当初一億円、将来五億円を見込んでいます。

12月定例議会

行政報告

九月定例議会以降の町政の主な事項について概要をご報告いたします。(以下要点のみ掲載)

稲作の作況指数は一〇〇で平年作を確保、一等米比率も九七・八と大きく上昇しました。米の集荷数量は十二月七日現在十四万二千九百二袋となり、限度数量に対し五千二十袋超過、対



作況指数100を確保した今年の稲作

する農家の取り組みが実を結んだ結果となり喜んでいきます。

転作目標面積は今年度二百六十七・二公頃で、目標達成率は百二・六。転作物は一般作物が全体の八一・六で、うち飼料作物が七五・六と昨年とほぼ同じでした。

葉たばこは耕作面積が三十・五公頃で前年より三・三一公頃減少、耕作者も七人減り六十八人となりました。今年は晩秋に長雨による乾燥不良がみられましたが、十ア当たりの量目が増え、個々には昨年より増収した農家も多くみられます。

肉用牛増頭対策奨励事業は二期目に入り、今年はその初年度ですが、十一月末現在で三十二頭の利用があり、更に増頭が進むものと見込まれます。

子牛市場には今年一年間で九百七十二頭を上場、目標の一千頭にあと一步と迫りました。また、販売頭数は一十二月市場まで九百六頭で、販売総額は四億一千九百二十六万三千円となり、一頭当たり四十六万二千七

百六十二円という高値安定の取引価格で一年の市場が終わりました。

牛床改善対策事業は農家の意欲が強く十一月末まで四十件の利用がありました。

出稼就労者は十二月十八日現在で男三百六十五人、女十二人で、前年に比べ二十七人減り過去最少となりました。

造林事業は大水頭で五七・五公頃の新植及び八・九公頃の補植事業を完了したほか、寺山など百六十一・七公頃の保育事業が九五の進捗率となっています。

林道寺山線は八百四十四メートルの作業道を開設し、予定事業を終えました。

作業道開設事業は好評を得ながら進めています。今年度分は二十一路線八千九百七十七メートルが完成、昭和五十九年の事業開始以降百七十七路線、延べ六万五千五百八十八メートルの作業道が開設されたことになりました。

梅の里づくり事業は今年度十団体が利用し四百八十本が植樹されました。これまで三十一団体が利用し一千七百十六本の梅が植樹されたことになり、同事業に対する町民の努力と理解が

大きく示されました。今後は事業を一步進め特産品づくりへの指導が急務となっています。

八塩いこいの森は今年度から管理人を設置し、管理の適正を期しているところです。今年の利用者は二万二千五百六十九人で、前年の一万四千人を大きく上回りました。特に町外、郡外からの利用者が目立ちました。

このほか、町民が火災、暴風、豪雨、洪水、地震災害などにより被害を受けた際、その罹災者に対して見舞い金を給付する、「東由利町災害罹災者見舞金給付要綱」を制定し、平成二年四月一日から適用することにした。

(道路関係は十二月号に掲載のため割愛しました)

意向調査年度内に実施

温泉開発協議会発足

同協議会では年度内に町民に対する意向調査を行うと共に、今後三回程度会議を開き、検討結果を町に答申することにしていきます。

【町温泉開発協議会委員】

〈町議会〉▽小松鉄郎(総務)

財政課長
以上敬称略。

山良一(町助役)▽柳野忠義(住民課長)▽八嶋保(企画)

温泉開発の方策を広い見地から検討する機関として、昨年十月「東由利町温泉開発協議会」が発足、これまで温泉調査結果の報告や意見交換、実施町村の視察などを行い、開発の可能性などについて検討しています。メンバーは協議会議員、観光協会理事、地域住民代表など二十一人で、会長には地域住民代表の佐藤達男さんが互選されています。

〈各連合会〉▽長谷山直助(老人クラブ会長)▽小野貞子(婦人会会)▽佐藤和広(青年会会)〈地域住民〉▽渡辺秋雄(田代)▽佐藤知泰(宇戸坂)▽佐藤達男(下通)▽伊東一夫(蔵)▽阿部重助(野田)▽石綿民喜(大琴)▽池部久(袖山)〈夢セミナー〉▽小野久一(会長)▽石渡恵美(会員)〈行政〉▽畑

稲作、畜産など中心に報告

前年度同期比で二千四百袋増となりました。品種別ではササニシキ五〇・五、あきたこまち四七・八で、良質米生産に対

12月定例議会

一般質問

問 石沢川の本格的な改修事業に着手すべきと思うが、どうか。

答 治水、河川改修に対する基本的な考え方は同感です。河川の氾濫が著しい寺田地区は、抜本的な河川改修を検討する必要があります。また、蔵集落から岩館にかけて水田冠水が繰り返されていますが、ここについては岩館バイパス工事と河川改修工事との関連で、現在県土木事務所が現地調査を踏まえながら検討しているところです。宿、高瀬、畑村地区の水田冠水地域は、国道の改良工事により解消される見込みです。

問 視察研修に対して助成制度の創設を望む。

答 真に研修するためのものであれば惜しまずに予算を計上してきたところであり、今年度で

も農村地域青年交流、中堅農業青年研修、農業後継者研修、地域リーダー養成事業など、多くの研修事業を実施してきたところです。海外研修についても、視野を国際社会に向けなければならぬ時代となりましたので、

問 国民健康保険の助産費を二十万円に引き上げるべきだ。

答 現在十三万円を支給していますが、国の基準額と補助率は県内一律であり、全県的にその引き上げを強く要望しています。増額については、今後の町国保会計の推移をみながら、更に検討していきたいと思えます。

問 林業農家の担い手育成に行政指導を図るべきである。

答 林業の町である本町の活性化を考えると、森林の管理と森林資源の整備充実が重要な課題であり、担い手の育成、強化を強く感じています。その対応策の一環として来年度、「林業労働者雇用促進対策事業」「森林組合作業班育成強化事業」「林業技能習得事業」などを実施し、林業労働者の社会保障の確保、

労働力の確保などを行っていきたいと考えています。

問 八塩小プールの新設について見解を問う。

答 校舎付近に来年度建設の計画で準備を進めています。現プールについては、地域住民の強い要望にしたがい社会体育用に転用する予定で、現在文部省と交渉中です。

問 黒淵大橋場、地下の沢、地下の沢橋間へ防雪柵を設置してほしい。

答 黒淵大橋場間は来年度設置する予定です。地下の沢、地下の沢橋間は平成四年度以降の建設に向けて検討したいと考えています。

問 県道羽後向田館合線改良整備の見通しを問う。

答 来年度から調査と実施設計など、実質的な準備に入っている。ただ、県に強く要望しています。

問 社会体育用への転用が予定される現八塩小プール



社会体育用への転用が予定される現八塩小プール

叙勲 阿部寅静氏が勲五等瑞宝章を受章



阿部寅静氏

町の功労者（昭和六十二年）で、人権擁護委員などとして活躍中の住職阿部寅静氏（七六歳・蔵）が、このほど勲五等瑞宝章の栄誉を受けられました。

阿部氏は昭和三十四年から人

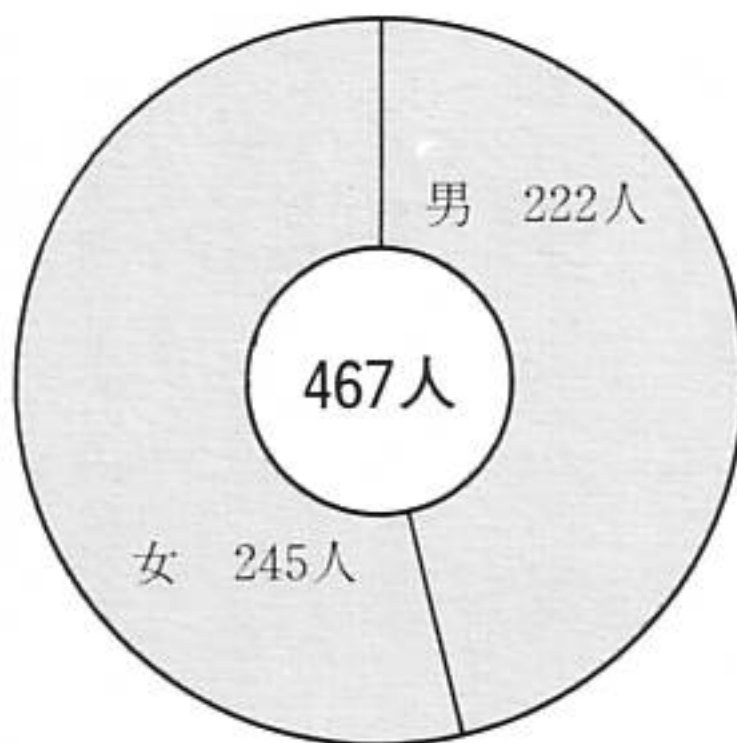
権擁護委員、同四十六年から行政相談委員、同五十年から町社会福祉協議会理事を、現在も現役で努められており、昭和六十年から平成二年まで秋田県人権擁護委員連合会副会長並びに、

本荘人権擁護協議会長を歴任されました。こうした功績により、昭和五十九年に法務大臣表彰、同六十一年に厚生大臣表彰、平成元年には総務庁長官表彰などを受賞されています。

可決された主な議案

- 大平スキー場リフト利用料金の一部を変更▼これまでの「一日券」（小・中学生千五百円・一般二千円）を、午前・午後・夜間に小分けした「当日券」にし、料金を各一枚小・中学生五百円・一般七百円とした。「当日券」は、午前九時から午後一時、午後一時から午後五時、午後五時から同九時まで。町一般職員の給与を改定▼平均三・八三割を四月にさかのぼって引き上げた。
- 平成二年度一般会計補正予算▼現計予算に一億三千八百五十九万八千円を追加。補正後の累計は三十三億九千六百九十二万九千円となった。主なものは……（千円以下省略）
- ▽給与改定関係▼三千八百五十万円
- ▽減債基金積立金▼一億円
- ▽良質米自然乾燥奨励補助金▼二百三十四万円
- ▽地域活性化対策事業費補助金▼六百四十八万円
- ▽出羽丘陵開発事業償還金▼千五百六十六万円
- ▽間伐強化推進対策事業費補助金▼百十八万円
- ▽視聴覚機材購入費▼三百一十万円

としおんな 年女は467人



未年生れは四百六十七人。
これは、町内の未年生まれの方をコンピューター（住民基本台帳・十二月一日現在）で調べた結果です。
これによると今年の「年男」は二百二十二人、「年女」は二百四十五人で、年代別では昭和六年が最も多く百四人、次いで同三十年の八十八人、同五十四年の八十五人などとなっています。また、家族の中に「年男」ま

平成三年は未年です。羊は、「おとなしい」「柔順」「群れる」などのイメージがありますが、何よりもわたしたちが実感できるのは、ウールのセーターや皮製品の肌ざわりと温かさです。
羊は紀元前六千年ごろ、家畜化されたといわれています。馬が家畜化されたのが、紀元前三千〜四千年ごろですから、羊と人間の付き合いは、かなり長い

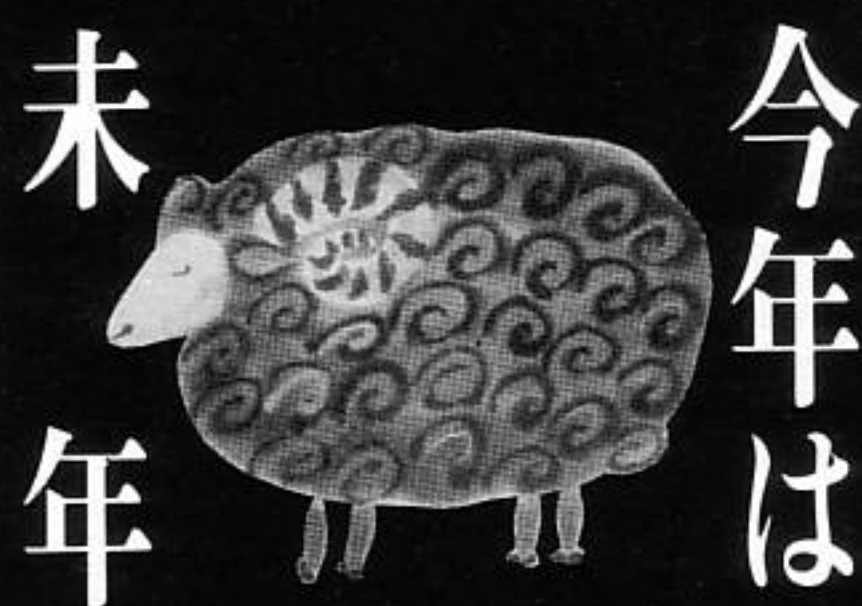
ことになります。
日本には、羊にまつわる諺があまり多くありません。すぐに思いつくところでは、「羊の皮を着た狼」「羊頭狗肉」くらいのもので、
では、なぜ羊に関する諺が少ないのでしょうか。西暦五九九年、推古天皇の時代に、百濟から二頭の羊が贈られたと、日本書紀に記されています。しかし、羊は乾燥した風土が好きなので、

ひつじ 感 未年生まれ家族集合！

右から亜由子さん（昭和54年生まれ・11歳）、福子さん



えと
干支が三人。今年も健康第一に
長谷山雄悦さん（館合新田）
昭和六年生まれ（59歳）
水道関係の仕事をはじめて三年。幾多の苦難もありましたが、どうにかこうにか今日まで仕事を続けさせていただいております。
私たちの仕事は体が資本です。



日本の気候に合わなかったのでしょう。あまり繁殖しなかったようです。そのため、欧米のように諺が多くないのだろうといわれています。
明治の初期、政府は綿羊の飼育振興を試みましたが失敗。その後、軍服などの製造のために、羊の飼育が奨励されました。また、戦後は農家の副業として、多いときには百万頭も飼育されていました。しかし、現在の飼

育頭数は、北海道や東北などを中心に、三万七千頭ぐらいい過ぎません。最近では、全国各地で観光牧場などの整備が進み、子供たちが羊を見る機会が増えました。
さて、「一年の計は元旦にあり」といいます。今年の目標を決め、「迷える羊」にならないよう、スタートを切りたいものです。

今年は長男が高校を受験します

横山福子さん（向田）

昭和三十年生まれ（35歳）
わが家は七人家族ですが、そのうち次女の亜由子と私の二人がそろって干支を迎えました。
私は早くも三度目ですが、次女にとっては初めての干支となりました。

今年わが家では長男の高校受験という大仕事をひかえており、何はともあれ、これが今年の一歩の心配ごとであり、また楽しみの一つでもあります。
今年の初詣では、もちろん長男が無事志望校に合格することを祈願します。

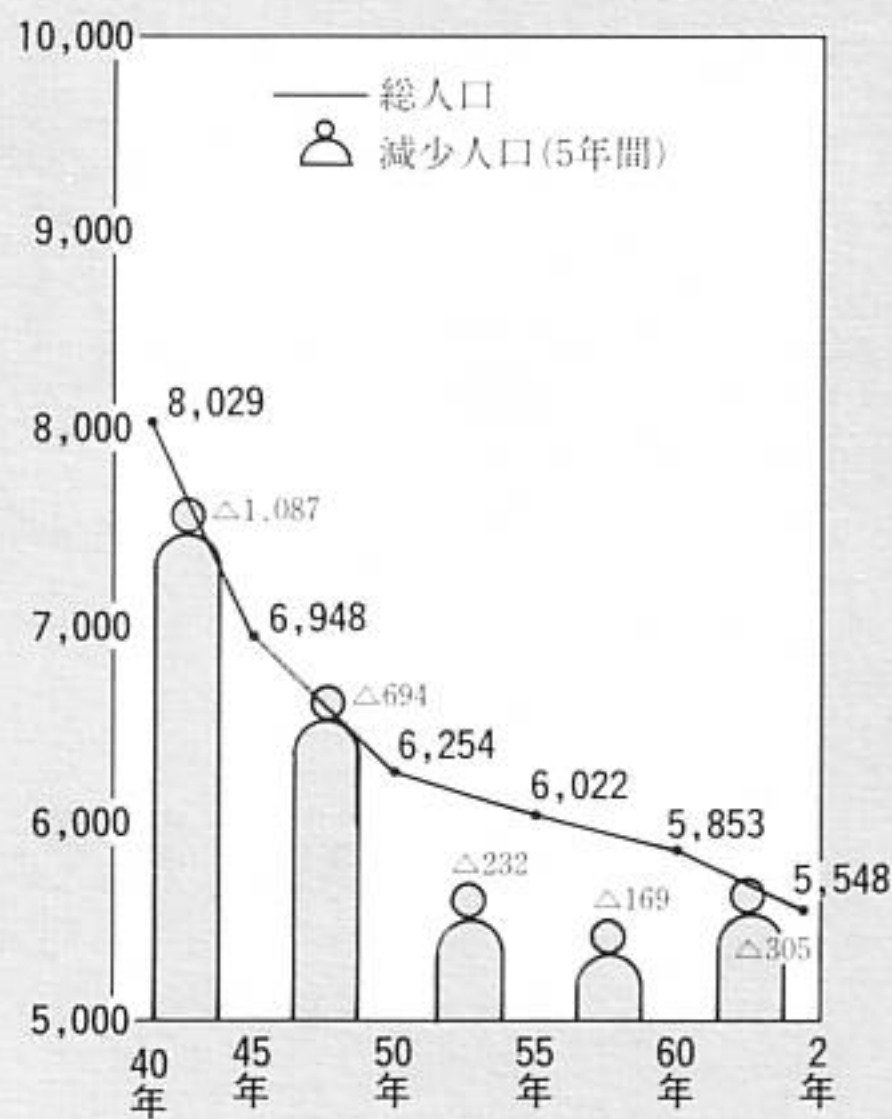
幸いにして、八十五歳の親父を筆頭に家族八人が皆健康で毎日を過ごしております。
今年にはわが家に未年生まれが三人。干支にあやかり、今年も健康第一に、皆で気をつけ合って暮らしていきたいと思っています。



右から一雄さん（昭和30年生まれ・35歳）、雄悦さん、美穂さん（昭和54年生まれ・11歳）

国勢調査結果

国勢調査人口の推移と減少人口
(単位:人)



町の総人口は5,548人

年間で三百五人(五・二%)減少しました。

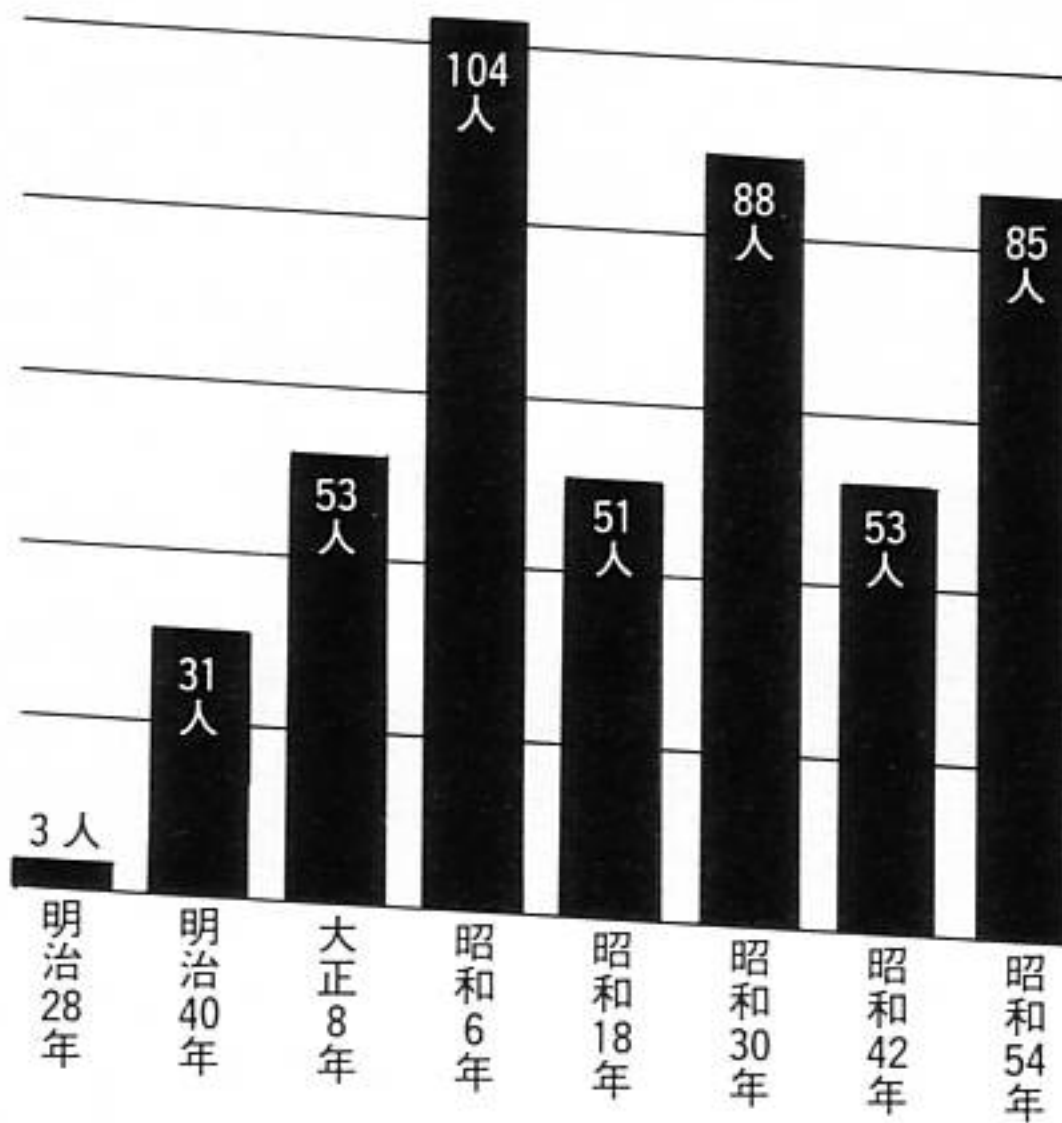
男女別人口は、男二千六百八十三人(四八・四%)、女二千

人口予想クイズ入賞結果

国勢調査にあたり「人口予想クイズ」を行ったところ、多数

の方々から応募をいただきました。正解者はいませんでした。五千五百六十七人と答えた小松慶彦さん(須郷田)が一等と決まったほか、次の方々が入賞し賞品を贈らせていただきました。

- ・二等 佐藤幸誠さん(黒瀬)
- ・三等 遠藤 中さん(宿)
- ・残念賞 嶺石綾子さん(山崎)
- ・加藤栄一さん(横渡)
- ・小野キクミさん(上里)
- ・嶺石伊津子さん(山崎)
- ・小野仁助さん(新町)



としおとこ 今年の男

たは「年女」が、二人いる世帯が四十九世帯、三人が四世帯で、さすがに四人という世帯はありませんでした。

ここでは、今年干支を迎えられた方が一家族に二、三人おられる世帯のうち、四世帯の方々に登場していただきました。

何かいいことありそな予

四月から中学生。がんばります

小野和美さん(上里) 昭和五十四年生まれ(11歳)

わたしの家では、わたしと妹の里美、それにおばあちゃん、三人が、ひつじ年をむかえました。妹とはふたごの姉妹で、同じ高瀬小学校の六年生です。

「えと」ってあまりよくわか

りませんが、十二の動物のことをいうのだと、おばあちゃんが教えてくれました。わたしのえとは、ひつじですが、ひつじは動物園で見たことがあります。

四月からは中学生になります。が、いっしょうけんめいがんばりたいと思います。



右から和美さん、律子さん(昭和6年生まれ・59歳)、里美さん(昭和54年生まれ・11歳)

七十代、まだまだ頑張ります

石綿徳市郎さん(大台) 大正八年生まれ(71歳)

内孫の和洋と仲良く干支を迎えました。孫は内孫が三人で、外孫は七人。一番大きな孫は今年二十四歳になります。こうして孫に恵まれたことを、何よりも幸せに感じています。

肉体的には楽だが精神的に忙しい時代……。やはり健康が何よりも大事で、そのためには適当に体を動かすことが大切ではないでしょうか。

七十の大台に乗り「人生八十年時代」も後半にさしかかっていますが、まだまだ頑張ります。

カメラトピックス

町のわだい

宴会前に記念写真を撮影
(参加者全員ではありません)



冬休みを前にして、子ども会のリーダーを対象にした交流会が大琴小学校を会場にして開かれ、町内子ども会のリーダー四十人が参加しました。これは町の青少年育成町民会議（畑山昭一会長）が子ども会の活性化を図ろうと今年初めて開いたもので、子ども会活動の自慢話などを発表し合ったあと、鈴木大琴小学校長がどうしたら楽しい子ども会活動ができるか……などについて話しました。また、子ども会活動のネタにしようとして、全員で室内ゲームを学ぶなど、リーダーたちはそれぞれの地域に交流会の成果を持ち帰りました。

この冬の活発な子ども会活動が楽しみです。



室内ゲームを学ぶ子ども会リーダーたち

「在京宿小会」

満一歳の誕生祝う

佐々木 義勝さん
(大琴出身)



新年おめでとうございます。本年も在京宿小会をよろしく願っています。

さて、11月23日東京北区昭和町区民センター大ホールで開いた当会満一歳の誕生

生を祝う祝賀会に、80人を超す参加があり盛大な宴会を行いました。

当日故郷から畠山町長や地元議員から励ましの祝電を、大琴小の鈴木憲一校長からは祝電のほか故郷の地酒などたくさん頂戴し、皆で感激しながらおいしく召し上がりました。また、当会兄貴分の東京東由利会からは長谷山稔会長が駆け付けてくれほんとうにありがたかったです。

この日、役場と母校から送っていただいた故郷のビデオを紹介すると懐かしさのあまり皆釘付けになっていました。宴会では会員が持ち込んだ百景の大画面ビデオカラオケが鳴りっぱなしで、尺八、民謡、踊りも続出……故郷の雰囲気を感じた楽しい一日となりました。これも会員名簿作成などにご協力をいただいた故郷の皆様のおかげと、心から感謝しております。今年は当会結成三周年。私達も精一杯頑張ります。

最後に、故郷の皆様的一年のご多幸を心からお祈りいたします。

この冬、子ども会が楽しい

●リーダー交流会開催●

国際ボランティア貯金

普及推進協議会発足

東由利町国際ボランティア貯金普及推進協議会（畠山亮二郎会長）が発足しました。

同協議会は開発途上国への食料支給や被災地への医師派遣、砂漠への植林などのため、通常郵便貯金利子の二〇％を寄附していただくことを推進する組織で、全国的に結成が進められています。寄附金はNGO（民間海外援助団体）を通じ開発途上国に送られます。

国際ボランティア貯金は一月四日からスタートしますが、加入には郵便貯金の通帳と印鑑をもよりの郵便局に持参いただくか、郵便局員に申し出ていただくことになります。

開発途上国では一日に約四万人の子供の命が奪われており、同協議会では一人でも多くの方の加入を望んでいます。

ママさん、家庭バレーに燃える

家庭バレーボール交流大会スタート



家事や仕事を忘れ家庭バレーボールに熱中するママさんたち

町内企業で働く三十歳以上の女性などを対象にした家庭バレーボール交流大会が、十二月十八日から始まりました。

リーグ戦方式で、毎週火曜日の夜、健康増進センターで開かれていたもので、期間は二月下旬までです。

参加は四チームで、一チーム十人、十五人編成のママさんたちが、家事や仕事を忘れ、ゲームに熱中しています。

ぜひ応援に出掛けてみてください。

全試合終了後には有隣館で親睦会を開き、更に交流を深めることにしています。

スキー場にウェアを寄贈

寄贈されたスキーウェアを着用するスキー場関係者

(株)アドバンス(大琴)から、このほどスキーウェア十二着が大平スキー場に寄贈されました。同社はスポーツウェアメーカーとして平成元年に創業、現在従業員は十八人です。大平スキー場では、このウェアを一般向けに、洗濯代相当の料金で貸し出すことにしています。



小松一雄さんが寄贈したカラーテレビ

玉米会館にテレビ寄贈

山崎出身で東京都在住の小松一雄さんが、このほど玉米会館に二五インチのカラーテレビを寄贈しました。小松さんは過去に、旧玉米小学校に現金を寄附されたことがあり、今回が二度目の善意です。寄贈されたテレビは同会館のホールに設置、利用者から喜ばれています。



表彰状を手にミエさん

ディスコでクリスマスパーティー

町づくり青年グループ「夢セミナー」(小野久一会長)主催による「クリスマスパーティー」が、十二月二十三日玉米会館を会場にして行われました。

当日は、クリスマスツリーを設置し、照明器具をそろえた会場に四十人余りの若者が集合。ディスコタイム、百円

ジャンケンゲームに心地よい汗を流し楽しんだほか、DJ(ディスクジョッキー)をまじえたクリスマスプレゼント抽選が人気を呼んでいました。

この時期、本町にはイベントがないことから、参加した若者たちからは「来年もぜひ開いてほしい」という声がたくさん出ていました。



ディスコタイムを楽しむ参加者

良質の炭づくり表彰

炭焼き五十年の長谷山さん

町でただ一人の木炭生産者で、「炭焼き歴」五十年を誇る超ベテラン、長谷山房雄さん(六五歳・下通)が、良質の木炭生産者としてこのほど県木炭協会から表彰されました。

長谷山さんは妻ミエさんと夫婦で木炭を生産、冬期間は関東方面へ出稼ぎに出掛けています。このため十一月三十日秋田市の協働社大町ビルで行われた受賞式には、ミエさんが出席し、東海林建県木炭協会長から表彰状と記念品を受領しました。

木炭は昭和十年代をピークに需要が激減。現在県内の生産量はピーク時の一五%、約六万五千トンとなっています。しかし、最近になって炭の持ち味が見直され、少しずつ需要が伸びてきており、生産者にとって大きな励みになっています。

ミエさんは「まだ当分は炭焼きを続けるつもりです」と、木炭生産に意欲をみせています。

戸籍氏名の誤字や俗字 町が職権で訂正します

戸籍はパスポートを取得する場合や、相続登記をする場合などいろいろなところで利用されています。このように、戸籍は日本人についての身分関係を登録・公証する公文書として重要なものですから、正しい文字で記載する必要があります。しかし、戸籍の中には氏名が誤字あるいは俗字で記載されているものもあり、窓口等でのトラブルが生じたり、社会生活上、不便を強いられている方も多いようです。そこで、戸籍についてのトラブル防止や戸籍事務のコンピュータ化に対応するため、今年一月一日からは、従来の戸籍に誤字・俗字で記載されている氏名を新しい戸籍に記載する場合

職権訂正から除かれる15字
鈎(鈎)館(館)槁(橋)
栞(桑)高(高)寄(崎)
崎(崎)昇(昇)舩(船)
兎(兔)洊(淵)柳(柳)
寶(寶)濱(濱)邊(邊)

＝平成3年1月1日から＝

トラブルの防止と 事務電算化に対応

新しい戸籍には
正しい字で記載します

(1) 従来の戸籍に、氏名が誤字・俗字で記載されている方について、次のような場合には新しい戸籍に正しい字で記載します。
ア、婚姻、転籍などによって

新しく戸籍を作る場合
イ、養子縁組などによって他の戸籍へ入籍する場合
ウ、戸籍を再製する場合など

(2) 誤字・俗字を正しい字で記載する場合には、届け出の時にあるいは戸籍に記載した後その旨お知らせします。

(3) 俗字のうち、「高」とか「洊」など、一定の範囲の字については従来のまま記載します。

申し出によって
正しい字に訂正することもできます

現在の戸籍については、そのままでは正しい字には直りませんが、申し出によって、いつでも戸籍に記載されている誤字・俗字を正しい字に訂正できます。

申し出によって
難しい字体をやさしい字体に
なおすことができます

戸籍に記載されている氏名が例えば「邊」と旧字体で記載されているためご不便を感じておられる方は、申し出によりその字体に対応する新字体（通用字体）である「辺」に直す（更正する）ことができます。

一分団に待望のポンプ車

町消防第一分団（黒淵、田代地区・畠山勉分団長）に待望のポンプ車が配置されました。



町消防第一分団に配置されたポンプ車

これにより五消防分団全分団にポンプ車が配置されたことになり、町消防機能が一段と充実しました。

配置されたポンプ車は六人乗りで、雪道にも強い四輪駆動。畠山分団長は「あまり出動させたくないが、万が一の時には大きな威力が期待できます」と、待望のポンプ車の配置を喜んでいました。

107号

トンネル着工・完成は5月



掘削が始まった二号トンネル(仮称)

国道一〇七号線の奥ヶ沢周

間の二号トンネル(仮称)の掘削工事が、いよいよ始まり

ました。

同トンネルの延長は二百二十五メートルで、平成三年五月中に完成する見込みです。また同トンネル完成後、延長七百五十メートルの一号トンネル(仮称)が着工となる見通しです。

起工式は十二月十九日現地で行われ、県や工事関係者、畠山町長など三十人が出席、工事の安全を祈願しました。

県読書感想文コンクールで、高瀬小二年の伊東涼平くんと八塩小五年の小松寛子さんの二人が優良賞を受賞しました。ここではその入賞作品をご紹介します。

(紙面の都合で一部を省略しました。)

「はらぺこおなべ」を読んで

高瀬小二年・伊東 涼平



かたてなべのおばあさんは、人のためにごちそうを作るなんていやだ、じぶんでおいしいものをたくさん食べてくらしたいと言って台どころを出て行ってしまいました。じぶんでしごとがいやになったからといって出て行ってしまふなんて、こまったおなべだとぼくは思いました。

でも、おなべのおばあさんは、外のせかいのことをあまり知らなかったもので、かわいそうなところもありました。まどをあけなくても、風がふいてくることや、水道の水とはちがつて、川の水がよこにながれること、夕やけで空や海がまっかになることを、外に出て、はじめて知ったのです。ぼくたちには、あたりまえのことですが、おばあさんは、ずっと台どころにいたのでわからなかったのだと思います。ぼくは、もっと楽しいことがたくさんあるよと教えてあげたくなりました。

おなべのおばあさんは、どんなにたくさん食べても、すぐにおなかがすいてしまいます。そして食べるたびに体が大きくなって、キャベツ、トマト、じゃがいも、きつね、め牛、くじらというように、食べるものもだんだん大きくなっていききました。ぼくは、たくさん食べてもあふれないし、いろんなところへおさんぽするので、おばけのようなおなべだと思いました。でも何だか、おなべのおばあさんの食べたくなるものが、だんだん大きくなるのと同じように、おばあさんのわがままな心も大きくなっていくような気がしました。はじめは小さなものでよかったけれど、だんだん大きな生きものでなければ、まんぞくしなくなっ

いったからです。

ぼくは、おもちゃをかってもらっても、すぐにあきて、べつの新しいおもちゃがほしくなります。そんなとき、おばあさんに、「わがままは、いけませんね」と言われます。おなべのおばあさんは、あまりわがままなので、まちら海へ行って、とうとう空にまでとびあがってしまいました。くじらまで食べてしまつて、もう食べるものがみつからなかったからだと思います。おばあさんは、もっと広いせかいへ、知らないせかいへととんでいくのさ、と言っていましたが、本当は、じぶんのわがままをはんせいして、おうちにかえりたかったと思います。外になんか行かないで、台どころでフライパンやミルクなべといっしょに、はたらいていたほうが楽しかったと思つたはずなんです。

おなべのおばあさんは、今でも空をとんでいるそうです。きつと、うちゅうのずつととおくをとんでいると思います。ぼくが、うちゅうりょに行つて、おばあさんに会つたら、おうちにかえるように言つてあげたいです。

ボルビイたちがうつたえる命とは

八塩小五年・小松 寛子



わたしたちの生活は何も不便なこととはありません。おいしい料理、いくら捨ててもすぐ手に入る紙など、昔に比べればぜいたくなものです。

しかし、そのために失われている命があることを忘れてはいけません。この物語は、人間とある不思議な生物との出会いを通して、命の大切さを考えさせる内容でした。

この物語にあるように、私たち人間が小さくなって小人と出会つたらどうするでしょう。私だつたら感激するようなことをイサムとアンナは体験したのです。ところが、ボルビイという小さな小人族は人間をうらんでいました。それは、人間が自分たちの利益やぜいたくな暮らしのためにボルビイたちの住む森を焼きはらつたり、木をやたらと切り倒したりしたからです。そして、そのたびに無残にも数

多くのボルビイたちが命を落としていったのです。

人間社会では、お互いに憎しみ合つて命を落とすことは現実にあります。けれども、人間がボルビイたちを殺すことは、私には理解できません。そんな中で、同じ人間というだけでボルビイたちがイサムとアンナを殺そうとしたのも無理はないかもしれません。しかし、伝説を信じて純粋な気持ちでボルビイたちに合いにきたアンナの気持ちはどうだったのでしょうか。期待で胸ふくらませていたアンナの気持ちは、一しゅんのうちにしぼんでしまったらうと思ひます。そもそもそんな気持ちにさせたのが、同じ人間だと分かつたとき、アンナは複雑だったでしょう。

人間の手による森林はかいによって、多くのボルビイたちの命が失われたことを知つたとき、私はドキッとしてしました。私たちの楽な暮らしのうらには、毎日失われている命があるなんて想像もつきませんでした。なんだか同じ人間としてつらくなつてしまひます。

今、人間たちのせいで一つまた一つ森林の命が失われています。もしかしてそのときに、私たちの知らないところで多くの命が共になくなつていくのかもしれない。

私たち人間は、自分で自分を苦しめているのではないでしょう。森林破かいによってなくなり続けている樹木は、二酸化炭素を酸素に変えてしまふ力をもっています。それに、人間にとつてちょうどよい温度にもしてくれます。それに対して、ボルビイたちが「光の川」とよんでいた高速道路はまるつきり正反対です。空気をよごすし、騒音という問題をも引き起こします。それなのに人間は、どんどん自分たちの害になるものばかり作り、自分たちに必要なものを破かいしているのです。自然とは、命につながるなくてはならない、とても偉大なものだと思ひました。

ボルビイたちは、このことを歌に表していたのかも知れません。つまり、その歌は、私たち人間の自然破かいに対する警告と自然の偉大さをうたえているものなのではないでしょうか。

森に行つたとき、耳をすましてみて下さい。ボルビイたちの歌声が聞こえてくるかもしれません。

カッパ

渡辺 和弘さん(22歳)
田代・秋田ルビコン(株)勤務



私が、高校を卒業し秋田信英(株) (昨年十二月より秋田ルビコン(株) に就職してから、四年が過ぎようとしています。

就職当時、三交替の勤務はとてもつらいことでした。交替勤務を嫌い多くの社員が会社を去って行くのを見て、私の心の中にも揺れ動くものがありました。しかし、

時間の経過と共にいろんな面で職場も改善され、また良き先輩方にも恵まれ、楽しく?現在の仕事に携わっています。

さて今年はいよいよ五年目……いままで以上に仕事も頑張りたいと思いますが、私はドライブが好きなので、今年はいろんなところへ行き、いろんなものを見て歩きたいと思っています。

これから先、楽しいことばかりではないでしょうが、むしろ苦勞をステップに多くのことを学び、自分を磨き、少しでも社会に貢献できたら……と思っています。

次は石渡恵美さん(蔵新田・22歳)にリレーします。よろしく!

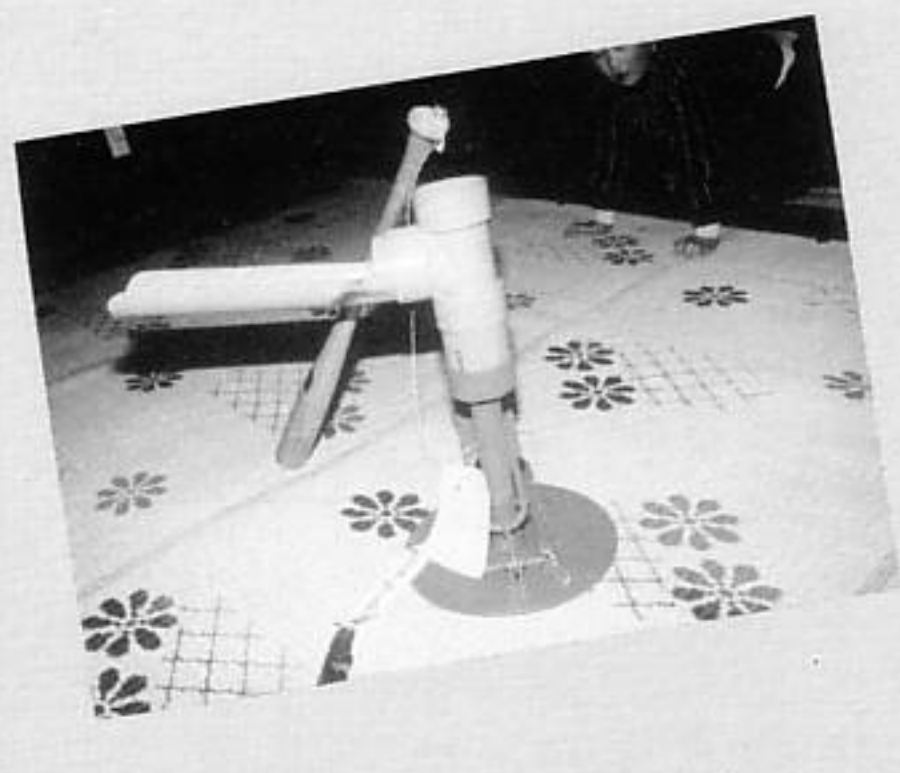
バッテイングマシン

小松聖嗣くん(八塩小・五年)



ぼくが、バッテイングマシンを作ったきっかけは、野球の部活で先生が、「だれか、バッテイングマシンを作ってくれないか」と、おっしゃっていたので、一人でも練習できるバッテイングマシンを作ってみることにしました。

作るときに一番苦勞したのは、



ちびっこギヤラソー

発明工夫編

ボールを筒から出すためのスイッチを、置く場所が悪く、あまりよく上がらなくて、なんども、なんども手直ししました。

完成したあとに、外でためしてみたら、ボールが勢いよく筒から出るし、バットに当たったときは、とてもうれしかったです。

これなら一人でも練習できると思いました。

このバッテイングマシンが、発明工夫展で知事賞をもらいました。知事賞をもらったときは、夢のようでした。

今まで長い時間かかって苦勞したので、うれしくて、ゆっくりしました。

保健婦の

快適タイム

年末年始、肝臓に活力を

年末年始でこのところアルコール漬けになっていませんか。

適量の酒は「百薬の長」ですが、度をすぎると悪魔の水になることはご存じのとおり。特に肝臓には大きなダメージを与えます。

肝臓は食物を体に適した形につくり変えたり、解毒したりという作業をする工場の役目を果たすところ。ところがアルコールは、肝臓工場の作業の流れを乱すのです。連日作業手順を乱されるうちに、工場そのものの機能も低下してきます。週二回は休肝日をというのは、こういう理由です。

お酒の中のアルコール量は、日本酒一合、ビール大一本、ウイスキーダブル一杯がほぼ同じで二十七グラム程度です。そしてこのアルコールを肝臓が分解するのには、約三時間かかります。

アルコールの代謝能力は個人差がありますが、栄養状態によっても左右されます。タンパク質に富んだつまみといっしょにとよくいわれますが、飲むときだけでなく、ふだんから高タンパクの食事を心がけ、肝臓に十分活力を与えておくことが大切です。

(保健婦・伊東志津子)

東由利の文芸

ゆりかご句会(十二月会)

◆山の湯をかたく閉ざして枯れすすき 鈴木要(沼)

◆枯れすすきしむ戸を引く葉売り 遠藤トミ子(小倉)

◆枯れすすき分けて土工着瀬に洗う 阿部澄子(蔵)

◆枯れすすき束ねて小庵囲いけり 小松慶次郎(高戸屋)

◆枯れすすき明治の母の青春譜 小松女沙(下小路)

◆枯れすすき山莊閉づる釘の音 高橋ヒデ子(横渡)

◆顧みる悲喜こもごもの十二月 小野貞子(蔵新田)

◆宅配便村から町へと十二月 小笠原トミ(同)

◆膝小僧抱いて思案の十二月 佐藤正義(湯出野)

◆十二月悔いを残して農日記 菊地常作(同)

◆漬樽に女を満たす十二月 阿部澄子(蔵)

◆枯れすすき見渡す果てに山眠る 小松徳蔵(湯出野)

せんせい登場



「ブッチャー」

八塩小学校・安保 純 先生

休み時間、子どもたちは元気に遊んでいる。私も、時々遊びに加えてもらう。すると、何人かの子どもが「キック」とか「チョップ」と叫びながら技をかけてくる。すると、一人の子が「ブッチャー」と言いつて手の平を水平にのばし、私の体を突いてくる。一人がやると、他の子も真似をして、「ブッチャー」としかけてくる。

これはトンネルズがテレビの番組で使い、子どもがおぼえたものと思う。

子どもに、「ブッチャーって何だ？」と聞くと「チョップやキックの仲間！」と言う。「アレ？技の名前と思ってるな？」と思い、「ブッチャー」というのは人の名前で、本名はアブドラー・ザ・ブッチャーなんだよ。この技も正式には『地獄突き』と言うのさ」と言ううと、目を丸くして驚いていた。

プロレスが深夜番組になってから、子どもたちはあの迫力を知らない。学校でもドッジボールや鬼ごっこが主流である。もっと迫力のある遊びをする子はいないものかなと思う。

ちなみに私の好きなレスラーはラッシャー木村である。



「乾燥剤」の利用法

のりや菓子の缶などに入っている乾燥剤は、缶の中身を食べてしまったらタンヌや引き出しなどに入れて、吸湿に役立てましょう。

主に菓子の缶に入っているシリカゲル系は、透明の白い粉に青い粒が混ざっているのが吸湿力のあ

ふるさとの昔ばなし 10

島のばばさま

語り・千葉寛太郎さん(島)
文と絵・石渡力造

むかしむかし島の部落に、赤ちやんが生まれるとき馬にのつて出かける名物産婆さんがおった。

ある年の暮れの寒い晩のこと、ピュウピュウと吹く吹雪の中を産婆さんも馬も真白になり家に帰る途中だけど。西の浜まできたら、馬が鼻息を荒くし歩こうとしなかつた。よく見ると一人の旅の女が吹雪の中さ倒れただけど。

産婆さんは急いで馬からおりて雪を払いのけ抱くようにして家に連れ帰り、いろいろ火で体をあつため介抱した。一夜明けて吹雪もおさまり、正月を迎えた朝の太陽はまぶしく窓からさしこむけど。すっかり元気に回復した女は、お札にと木でつくった小刀を差だし、「体の痛いところに使ってください」と別れを惜しむように雪道を旅立っていった。

長い冬もすぎ、つらい春仕事が始まると腰痛や手首の痛いそら手を何んとか治してくれと、村人は産婆さんをお願いにくるのだった。産婆さんは、旅の女からいただいた木の小刀を思い出し、痛いところを二、三度そつとなでてみだでおの



ふるさとを想う ③

町の宣伝に努めたい

仙台市青葉区東勝山三丁目六・一九
島山仁吉さん(71歳・寺田出身)

新春をお慶び申し上げます。東由利町は資源に渴れることのない自然に恵まれた町で、輸送も一〇七号線で全国へ遅延なく運ばれ、しかも岩手県北上市を起点に現在道路改良が行われ、今後の期待も広がります。

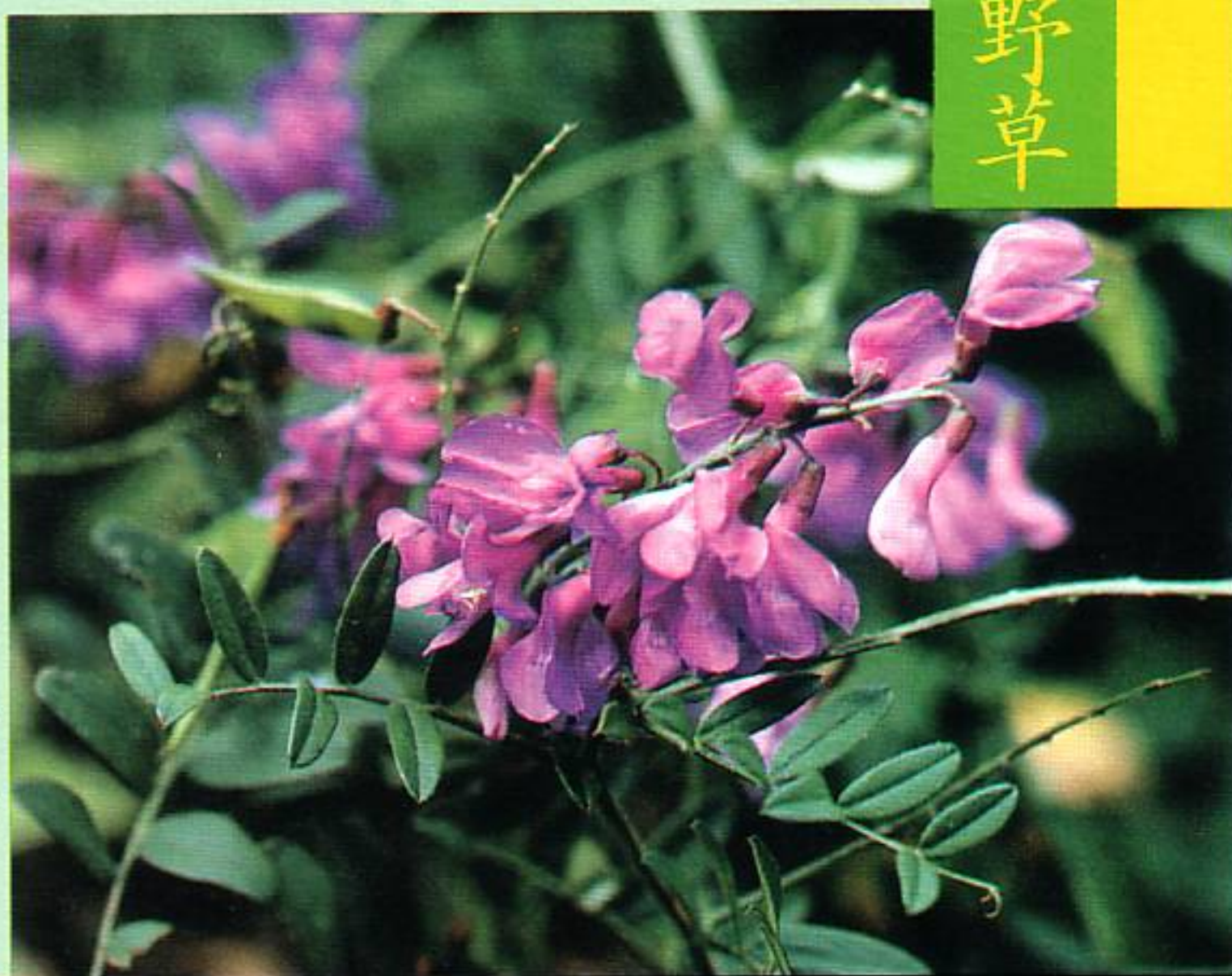
昨今、あきたこまちへの高い評価が報道されていますが、これは皆様の日頃の努力の成果であり、これが他の産業を刺激し、ひいては観光、レジャー開発などにも大きな弾みになることでしょう。

ツルフジバカマ

(マメ科)

文・写真 小松忠正

71



原野・山裾等に多く見られる多年生のつる草で、長さ1m以上になります。茎は四角(方形)で、地下茎で繁殖します。葉は互生し無柄で小葉は対生または互生しているものもあります。葉の先端はツルになって他の植物に巻きつ

てのびます。(写真寺田で) 秋に葉腋から10cm前後の花梗を出して紅紫色の美しい蝶形花を多数つけます。和名はツルを草のようすに、花を紅紫色のフジバカマにたとえたものといわれます。

1月 (11/1~11/30)

町の三二統計

●人口 () は前月比

・男 2,835人 (△1)

・女 2,976人 (△4)

・計 5,811人 (△5)

●世帯数 1,421戸 (2)

() は1月からの累計

●出生2人(34) ●死亡3人(54)

●転入9人(67) ●転出13人(126)

●火災出動……1件 (3)

●救急出動……7件 (104)

●交通事故……0件 (9)

・死者……0人 (0)

・傷者……0人 (16)

●飲酒運転……0人 (2)

●酒気帯び……0人 (3)

1町民カレンダー

5・町政座談会(大蔵館9時~)

〃 (住吉会館13時30分~)

6・消防出初式(健康増進センター10時~)

7・町政座談会(商工会館13時30分~)

第6回

雪ん子ふれ合いのつどい

日時/1月11日・午前9時30分~

会場/台山グラウンド周辺

1月10日は「110番」の日

11・3歳児健診(有鄰館13時~)

14・生き生き教室(〃 10時~)

18・機能訓練教室(〃 13時~)

21・健康大学(〃 13時~)

12、26日の土曜日は役場が休みです

町社会福祉協議会に遠藤重和さん(本莊市)・高橋時郎さん(久保)から金一封が、町公民館図書室に畠山仁吉さん(仙台市)から蔵書十二冊(山本周五郎)が、大琴小学校に神坂忠夫さん(大琴)などから、たこ二十個が届けられました。ありがとうございました。



戸籍だより

(11/21~12/20届出・敬称略)

●お誕生おめでとう

12/26 小野 一真(一志) 長男 須郷田

12/25 小松 由季絵(与悦) 二女 新町

12/24 小野 久美(幸喜) 三女 上里

12/20 長谷山 達也(徳保) 長男 八日町

12/19 佐々木 健太(興和) 二男 大琴

●ご結婚おめでとう

12/21 小松 明 畑村

12/21 小松 麻紀子 八日町

12/24 岩井 敏貴 蔵新田

12/24 小松 久美子 下通

●ごめい福をお祈りいたします

12/20 高橋 キヲ(92) 時郎(母)久保

12/19 長谷山 ヨイ(66) 千代三(妻)新沢

12/16 小野 ムネヨ(86) 源造(母)上里

12/15 佐々木 チヨ(73) 壽一(母)大琴

マイ スケッチ

白鳥

小松 武さん(五海保)



白鳥の飛来地として有名な十文字町の皆瀬川に暖冬の今年もたくさんの白鳥や鴨が訪れています。現在白鳥の数は1,300羽、ピーク時には2,500羽にもなるとか。

▼明けましておめでとうございませう。広報ひがしゆり新年号をお届けします。本年もよろしくお願いたします▼新年早々おわびです……前月号で遠藤喜美子さん(新処)は遠藤喜美子さん(蔵新田)八塩製作所は八島製作所の誤りでした。おわびして訂正いたします▼「新年号」といってもご承知の通り編集は十二月。「去年」「今年」「来年」

編集室から

の使い分けに毎年のことながら苦労します。去年編集した今年の広報紙に間違いはなかったでしょうか?▼一月は新年度予算の編成期。今年は町勢要覧の発行を予定しているため広報予算が膨らみそうです。カメラとワープロにガタがきてますが今年は我慢……。でも年度内に壊れたらどうしよう▼本年も皆様にとって良い年でありますように……。